

杉山吉良 つとよし 寫道家。明治四十三年靜岡縣伊東生れ、昭和二十二年十一月十一日没（一九〇一—六六）。早稲田中學一年時、關東大震災で両親を失ひ孤兒となる。昭和二年。パラマウンテン・ニュース入社。ヘンリ―小谷の師事。十一年雜誌『オール讀物』の女性の動態を主題とした連作を發表。十四年文藝春秋社特派員として中支戦線に従軍、十七年陸軍報道班員となりアッツ島上陸作戦に従軍、報道寫眞の他北方植物の撮影にも當る。戦後ヌード寫眞の境地を開き、四十四年作の展「讀歌」を開催。この間、二十八年から三二年餘ブラジルの滞在、未開地、原始生活、秘境等々テーマの記録映畫と寫眞制作に従事。
 著書、『裸族ガビオン』アマゾン奥地の原始生活』(昭和二十二年七月十五日光文社)、『北限の花—アッツ島再訪』(昭和五十四年九月—二十三日文化出版局)等。

